

# 園長通信

## (令和7年度10月号)

幼稚園型認定こども園高槻双葉幼稚園  
園長 岡部 祐輝

### 【心をひとつに・・・が存在する背景】

10月に入り、少しずつ夜間などは秋の雰囲気を感じる日も多くなってきました。しかしまだまだ暑い日もあり、そのような中で子どもたちは園庭での遊び、そして運動会に向けた活動などを行っています。年々猛暑の影響で、園庭での遊び・活動が制限されることが増え、毎年運動会に向けた取り組みや活動の在り方は検討が必要と考えています。活動の制限がかかり、従来より取り組むことができる機会や時間が限られている中で、従来通りの方法で活動をしようとする、当然、無理が生じたり、「させる」という意識が強くなったり、大人の都合を強いたりすることが起こりえます。年度や状況により、目の前の子どもたちにとってどうか、どのような学び・育ちが必要なのかということを総合的に考慮して、保育活動やねらいを考えたいと思います。

さて、2学期は学年により異なりますが、少しずつ「みんなで取り組む」ということが増えてくる時期でもあります。今回はこの「みんなで」ということについて考えたいと思います。

話は変わりますが、プロ野球セ・リーグでは、2年ぶりに阪神タイガースが優勝を決めました。(阪神ファンの皆様、おめでとうございます！) その優勝を決めた一戦をわたしもテレビ越しに見ていましたが、最終回に抑えの岩崎投手が登板する前の登場曲に、現監督の藤川監督が現役時代に使用していた曲を選曲され、甲子園球場に響き渡りました。おそらくファンの皆さんは大合唱をされたものと思います。この光景をみて、球場に集まった何万人という人たちが、勝利を願い、みんなで同じ思いで同じ曲を歌う、聞くという姿から、TV越しではありましたがとてつもない一体感と、みんなと一緒に何かを取り組むことの力強さを改めて感じ取りました。またこのような光景はなんだか胸にグッとくるものがありました。

この場面はおそらく、みんなで合わせることを強要された場面ではなく、一人一人がその場の雰囲気や状況から、自然と行ったことが重なり合い、結果一つのものとして合わさったということかと思います。つまり、「～したくなる」、「～をやってみたいな」ということや、「同じものを好きでいること」、「勝ちたいという同じ思いがあること」が、このような一体感を生み出す大きな要因であると思います。

### 【「みんなで・・・」集団のよさを少しずつ感じる経験】

幼稚園では、一人一人の遊びや活動の視点も大切にしつつ、おのずと集団生活が営まれているわけですので、「みんなの中で過ごすわたし」となることももちろんあります。

教育の場面ではよく、「みんなで心を一つに」、「みんなで頑張ろう」などという言葉が目標や活動のねらいの中で現れてきます。もちろんそれらも素敵なことなのですが、特に幼児期の子どもたちは、経験の違い、発達の違い、そして興味関心の違いなどが個々に大きいため、一律全員が同じテンションやモチベーションを求められ、何かに向かって心を一つにすることは難しいと考えます。つまり大切なことは、「心を一つにする経験」を最優先の目標にするのではなく、一人一人が「みんな(集団)を感じる経験」、「力を合わせた経験やその時に感じた感情に触れる経験」、「みんなでやることでよかったと思えた肯定的な部分への気づき」などを、活動の中で個々の思いの違いがあることを前提に考えていくことが必要なのではないかと思います。(端的に

書くと、「みんなでがんばらないといけない」を過度に強要することが重要な時期ではないのではないかと思います）

もちろん前月号で記述した通り、「がんばりたい」、「みんなでやりたい」という思いを持つ子どもの権利を侵害する自由（例：私はやりたくないから邪魔をするんだということが、認められることにはならない）は考えないといけないことではあると思いますが、「みんなの中で頑張ることが苦手」な場合、小さな目標や「やってみたいな」と思えることにまずトライし、超えていけた経験を大切に、少しずつ「みんなで」を感じていく援助を行うことが大切と考えます。

## 【「子どもたち（集団）のやってみたい」がどこにあるか】

幼児期の子どもたちの発達段階をふまえても、「何をさせるか」ではなく、「何に子どもたちは夢中になるのか」を考えることが重要です。

「教育的なねらいや子どもに経験させることを考えることが教師（大人）だ。集団活動を経験させることで、集団で行動する力は高まるはずだ」という論理だけで進むと、活動に対してモチベーションが低い、持ちにくい子どもにとってみると、学びが得られないだけでなく、学びへ向かう姿勢そのものを後退させるリスクが生じます。

そのため、幼児教育では特に、幼稚園教育要領に記載されているように、「**幼児の自発的な活動としての遊び**」を軸に、そこに保育者が考えるねらいや願いをあわせて、運動会などの行事や取り組みを設定していくことが求められます。ゆえに、運動会の内容やアプローチ方法などが毎年変わるということになります。

運動会など「みんな」を感じる行事を通して、日常の保育とつながり、より学び・育ちが得られること、そして、「みんな」で行うことの良さや必要感などを、各々が少しずつ感じられるよう、援助していきたいと思っています。